

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2775802214
法人名	有限会社 永世会
事業所名	グループホーム成寿苑
所在地	〒547-0043 大阪市平野区平野東4丁目1番26 (電話) 06-6791-7700

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年6月19日	評価確定日	平成21年7月10日

【情報提供票より】(平成 21 年 4 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	14.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 (無)	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要(4 月 30 日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 喜多クリニック・山田歯科クリニック・医療法人育成会 三好病院・ 医療法人寺西報恩会 長吉総合病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平野公園に近い当該ホームは古くからの工場や住宅が建ち並ぶ一角に位置し、ホームに入ると愛犬2匹が出迎えてくれ、利用者の癒しとなっています。広い庭には菜園が作られ、ボランティアの協力も得て、立派な野菜が収穫でき、食卓に上っています。職員は「その方にとっての普通の暮らし」という理念の如く、その人らしさを大切に、共に暮らす者として線引きすることなく、何でも一緒に行いながら、利用者のしたいこと、出来ることを引き出しています。利用者は職員と見間違えるほどきばきと役割をこなし、生き活きと生活されています。また運営者が深く関わり、管理者も業務に入ること個別対応が可能となり、利用者はいつでも行きたい時に行きたい場所へ外出できています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題でもあった理念を見直し、会議の中で職員全員の意見を聞き、地域密着型サービスとしての思いをも加味した理念を作り上げました。また研修後は報告書を書き記録を残すなど、改善に努めています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票はミーティングの際、全員で話し合い、運営者、管理者が集約して作成するなど、全員で取り組まれています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年度は3か月毎に利用者、家族、町会代表、区健康福祉課職員、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、職員が参加して開催されています。会議ではホームからの様々な取り組みの報告がなされ、参加者からはそれらについての評価や助言、要望等、多くの意見をいただき運営に反映させています。今年度は2か月に一度開催する予定です。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの苦情や意見は来所時に聞くようにしています。また玄関先に苦情箱を設置し、外部苦情機関を書面に掲載し、家族が意見を言いやすい体制作りがなされています。出された意見について必要があれば、会議で話し合い対処しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、回覧板等から情報を得て、地域の祭りや盆踊り、地域のふれあい喫茶に参加しています。また地域の方の介護についての相談を受けたり、地域の講習会の手伝い等に出かけています。近隣のボランティアが日々ホームの畑や庭の手入れに訪れ、ホームからも収穫物をおすそ分けしたりと、地域との交流がなされています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度の改善点でもあった理念を見直し、会議の中で職員全員の意見を聞き、地域密着型サービスとしての思いをも加味した理念を作り上げている。理念は利用者側の思いと職員側の思いをそのまま言葉に表し、わかりやすいものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はトールペイントで美しく飾られ、誰からも良く見えるように玄関に掲示されている。朝夕の申し送り時や会議の際には理念について振り返り、確認し合って日々のケアに活かされている。また理念は常に全員で話し合い見直し、その時にあった理念に変更していく予定である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板等から情報を得て、地域の祭りや盆踊り、地域の方から介護についての相談を受けたり、地域の講習会の手伝い等に出かけている。近隣のボランティアが日々ホームの畑や庭の手入れに訪れ、ホームからも収穫物をおすそ分けしたりと、地域との交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の結果、理念を見直したり、研修の際の記録の徹底を図る等、改善に努めている。また自己評価票はミーティングの際、全員で話し合い、運営者、管理者が集約して作成された。ホームでは職員が交代で外部評価の聞きとりの際に同席し、評価の本来の意義や内容を把握する機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は3か月毎に利用者・家族、町会代表、区健康福祉課職員、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、職員が参加して開催されている。会議ではホームからの様々な取り組みの報告がなされ、参加者からはそれらについての評価や助言、要望等、多くの意見をいただき運営に反映させている。今年度は2か月に一度開催する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区担当者の運営推進会議の参加等もあり、馴染みの関係が構築されており、何か問題があれば訪問したり、すぐに来てくれたりと連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	頻繁にある家族の来訪時に介護記録を見せ、日頃の様子や健康状態を報告している。利用者とは会う機会を確保するため、なるべく利用料は持参してもらっている。また預かり金についても来訪時に出納帳を家族に見せ、確認印を頂いている。	○	現在ホームページを作成し、ホームの様子を伝えたいと検討しているが、まずは、家族の安心を確保するために、日々の利用者の様子や健康状態を写真等も含めた個別の便りにして定期的に報告されてはいいかがでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情や意見は来所時に聞くようにしている。また玄関先に苦情箱を設置し、外部苦情機関を書面に掲載し、家族が意見を言いやすい体制作りがなされている。出された意見について必要があれば、会議で話し合い対処している。また、家族会の開催も検討中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者がフリーで勤務している体制であり、職員の急なシフト変更や利用者の個別の要望にすぐ対応できる体制になっている。運営者や管理者は職員と日頃よりコミュニケーションを取り、悩みや相談が言いやすい関係づくりを心がけている。新しい職員には習熟度に応じて十分な引き継ぎ期間を設け、利用者に影響のないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでは職員の経験や能力に応じて実践者研修を始め、多くの外部研修に参加している。研修後は報告書を書き、次のミーティング等で他の職員に伝達研修し、資料は閲覧用に保管している。またホーム内でも毎月勉強会を開催し、スキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的に市のネットワークや区の連絡会に参加し他ホームと情報交換している。また年に何度かネットワークの職員同士の相互訪問や交換研修等の機会があり、他ホームと交流し、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームを見学していただき、他の利用者や職員と一緒におやつを楽しまれたり、2泊3日までの体験入居も可能であり、雰囲気に馴染めるかを見て入居を決めてもらっている。また職員が自宅を訪問して顔を覚えてもらう等、納得した上での入居を心がけている。入居後は利用者の1日の流れを尊重し、家族にも協力を仰ぎながら徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理が不得意な職員を利用者が助けたり、生活する上で利用者から教わることも多い。職員は利用者の尊厳を念頭に置きつつも、ホームで共に暮らす者として線引きはしないように心がけ、何でも一緒に行っている。入居者同士の喜怒哀楽も大切にし、自然のことに受け止めるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念でもあるその人らしさに注目し、利用者とのコミュニケーションを大切に、言葉や表情から思いを把握するようにしている。困難な場合は家族に聞いて把握している。得た情報は朝夕の申し送り時に伝え、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を聞き、日々の関わりの中で得た情報をもとに、カンファレンスで話し合い、職員の思いや気づきを取り入れてケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは毎月モニタリングで評価し、3か月ごとにカンファレンスを開催して見直し書き換えられている。また状態に変化がある利用者についてはその都度カンファレンスを開き見直しされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	愛犬が2匹飼われ、利用者の癒しになっている。家族が行けないときの通院介助や嗜好品の買い物、馴染みの理美容・喫茶への外出、図書館通い、以前経営していた自分の店に出かけるなど、個別の外出が行きたい時に行けるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間や緊急時の対応等安全第一を考慮し、入居時に利用者・家族に説明した上でホーム医を利用してもらっている。週に1度主治医、歯科医の往診があり、週2回の訪問看護の来訪により、日々の健康管理を行っている。また利用者個々の希望により、マッサージ師や整体師の来訪もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には重度化の指針を交わしている。利用者の状態に応じて家族の希望を聞き、必要があれば、家族、主治医、職員が話し合う場を設け、その方にとって一番良い方針を検討している。職員も研修の中で重度化に向けた項目も取り入れ、スキルアップを図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いについてはミーティングの際に常に確認合っており、運営者は信頼関係が出来上がった上での言葉使いが大切であると職員に説明している。個人のファイルは各ユニット事務室の鍵のついた書庫に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間は決めておらず、朝食もまちまちである。職員は利用者のその人らしさを大切にしながらも、他の利用者との関係性も保てるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は一緒に献立を考えたり、広告を見て食材を頼んだりすることもある。調理の好きな利用者はよく台所に立ち、下ごしらえから片付けまで職員と一緒にされている。菜園で収穫された野菜が食卓を飾り、それが話題にもなり、一緒に楽しい食事時間を過ごされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めることなく、利用者の希望に添って入浴できるよう支援しており、夜入られる方や夏場に毎日入浴される利用者もいる。拒否傾向の利用者には、タイミングを変えたり、職員の声かけを工夫したりしながら入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や水やり、畑仕事、洋裁、食事の号令等、それぞれが我が家の如く自然な動きで役割を担っている。2匹の犬が癒しとなり、犬と一緒にユニット間を移動する利用者もいる。きぼうがあれば職員と散歩や外出をし、庭の野菜を収穫するのも楽しみの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでの外出は日常的で、近くの公園や喫茶店、行きつけの店、図書館等行きたい時に行きたい所に出かけている。出かけたくないときには、広い庭や畑で外の空気を感じてもらっている。時にはドライブや弁当持参での外出、外食もされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外からの危険回避のため、玄関は施錠しているが、ユニット入口、エレベーターは施錠せず、自由に行き来が出来ている。頻繁な外出を実現されている利用者にとっては、閉塞感は見られず、いつでも鍵を開けて外に行ける感覚を持っており、職員もそれを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施している。1度は消防署の指導を受けて実施し、利用者と一緒に消火器の使用方法についても講習もされている。ホーム独自でも利用者・職員全員が参加して取り組んでいる。次回は夜間を想定して地域の協力をも得ながら開催する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者のメニューを参考に1日1600kcalから1800kcalを目安に食事を提供している。毎回の食事量や1日の水分摂取量はチェックリストに記録し、毎週体重測定を行ない、栄養状態の把握に努めている。利用者の状況に応じて刻んだりとろみをつけたり、お粥等食べやすくして提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い庭には畑や芝生を設け、花や野菜が植えられ常に季節を感じることが出来る。室内にも観葉植物をたくさん配置し、空間や廊下は絵画やトルペイントで飾られている。台所は利用者も入りやすいように広く、背中合わせに2つの流し台が用意されている。また利用者の関係性を考慮して食卓やソファの配置を時々変えるなど工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は明るく広さも十分で、利用者は自宅より、タンスやテーブル、椅子、仏壇、ぬいぐるみ、家族の写真等馴染みの品を持参し、配置も工夫されている。部屋の入口はそれぞれトルペイントの表札やのれんをかけ、自室がわかるよう工夫されている。		